

2020 年度実施概要

学校名

沖縄県立沖縄水産高等学校

採択活動名

海人科 ～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 水産海洋基礎 (4 単位)	1 年	水産
2. 総合実習 (3 単位)	2 年	水産
3. 課題研究 (3 単位)	3 年	水産
4. 総合実習 (6 単位)	3 年	水産

取り組みの概要

1 学年：沖縄の美ら海と SDG s を学ぶ

水産海洋基礎において、隊列訓練、遠泳、ロープワーク、編網の技術を習得し、水産や海洋に関する諸問題について関心を持ち、実践的な態度を身に付ける。

新型コロナ感染予防の観点から、実施が見送られていた「美ら海水族館」および「海洋文化館」の施設見学を 3 月に実施し、海洋という世界共通の資源を守るにはどうしたよいかを SDG s の視点で考えることができた。

2 学年：糸満の伝統を学ぶ（サバニ、ミーカガン、伝統漁法）

糸満海人工房「ハマスーキ」の施設見学及び講話を通し、糸満の誇るサバニとミーカガンの歴史を学び、伝統を継承する重要性を学んだ。アンケートの結果、80%の生徒がミーカガンの歴史を初めて知ったと回答しており、「水産学校で勉強して改めて見学すると、更に話が理解できて、良い経験が出来た」や「後継者が少ないと言うことで私たち自身も伝統漁業の理解を深め、次の世代に少しでも伝えられたらなと思いました」と前向きな感想があり、今後も継続し糸満の伝統文化を学ばせる必要性を感じた。

3 学年：「美ら海プロジェクト 2020～プラゴミとマイクロプラスチック問題の解決に向けて～」

課題研究および総合実習の中で、海プラ問題解決に向けて以下のことを実施した。

海邦丸五世における調査、サンプルの解析、ウミガメ講話、JAICA 沖縄による世界のごみ問題講話、近隣海岸の海ゴミ調査、マイクロプラスチックを利用したアクセサリ作成、小中学校への啓発活動、糸満釣りいかだにおける漁獲物調査

研究のまとめについては、別紙「美ら海プロジェクト 2020」にあるとおりである。

1 年間の研究を通して、研究を進めていくにつれ問題の大きさ、難しさに気づき、自分たちに何ができるか、世界を変えることができるのかを考え、さまざまな視点から海ゴミについて探究する 1 年間だった。生徒の感想から「私たちができることはゴミを減らす、ゴミを拾うといった小さなアクションしかないが、SNS 等を活用し、みんなで共有することで大きなアクションにつながれば、世界を変えられるかもしれ

ない。小中学生への啓発活動が大事だと考え、今後も活動を続けてほしい」とあった。次年度も継続して研究を行うことで発展することが期待される。

また、小学校との地域連携事業である「わくわくセカンドスクール」では、本校生徒がリトルティーチャーとして手旗信号、隊列訓練、カッター漕艇の技術を教え、互いに学びあう良い機会となった。小学生からの感想は「お兄さんたちがやさしく教えてもらえて、楽しかった。将来、沖水に行きたい」などこの取り組みをきっかけに水産・海洋教育に興味を持ち、将来を目指すという前向きな感想も多かった。また、高校生からも「教えることで、今まで以上に復習した」や「小学生ができた満足してくれたのがよかった」など、高校生にとっても学びが深まる良い機会となった。今後も継続していきたい。

活動中の写真



写真 1 : 海人工房ハマスーキ見学



写真 2 : 糸満中での海ゴミ講話



写真 3 : 手旗信号を教える様子



写真 4 : カッター漕艇を教える様子



写真 5 : 高嶺小にて海ゴミ講話



写真 6 : 美ら海水族館見学